



日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society

愛知県支部

# 日赤あいち

No. 158

2024. 春

## ▶ CLOSE UP

被災者に寄り添う活動を

## ▶ TOPICS

▶ 日本赤十字社愛知県支部 令和6年度事業計画と予算の概要

▶ 赤十字奉仕団 ボランティアリレー 豊明市赤十字奉仕団

# 赤十字は、動いてる！

あなたと想いをひとつにして。

5月は  
赤十字運動  
月間です

皆さまのご協力をお願いいたします



TEAM  
**SAVE365** 一緒に、救える。

日本赤十字社の活動は、皆さまの寄付によって支えられています。

ボランティアとして活躍する奉仕団がリレー方式で登場



赤十字奉仕団

バトンタッチ！

# ボランティア リレー

豊明市赤十字奉仕団

今号の  
奉仕団

こんな活動をしています

豊明市赤十字奉仕団は地域を4ブロックに分け、1ブロック5名の計20名で活動しています。数年前から75歳定年制度を作り、役員は2年任期として円滑に活動しています。

長く続けている献血普及活動は年3回行っており、私たちは声掛けや案内、記念品セット作り、記念品お渡しなどのお手伝いをしています。昨年度末の臨時献血には、年末にもかかわらず80人の方に献血していただきました。毎回皆さんの善意に感動します。

また、防災教育教材「いえまですごろく」を使って、豊まつりやJAけやきの会の高齢者ミニデーにて子どもから高齢者まで幅広い年代と楽しく交流しました。これらの行事は好評であり、これからも「地域の方が参加する赤十字奉仕団」をボランティア活動で広めていきたいです。

活動資金 ご協力ありがとうございます

日本赤十字社愛知県支部へ活動資金として  
多額のご寄付をいただいた法人様

- ▶ アスク環境開発株式会社 様
- ▶ シンコー株式会社 様
- ▶ 一般社団法人日本アルミ鋳造会 様
- ▶ 株式会社F&Cホールディングス 様
- ▶ 株式会社センテナリー 様
- ▶ 株式会社平岩鉄工所 様
- ▶ 株式会社山忠 様

日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society

日赤あいち

〒461-8561 名古屋市中区白壁 1-50 TEL 052-971-1591 (代表)

発行元/日本赤十字社愛知県支部 発行日/令和6年4月1日

イチオシポイント

幼児安全法の普及

令和4年度に当初初となる幼児安全法の指導員を養成しました。令和5年度は地域への普及の第一歩として、幼児のいるお母さん10名を対象に幼児安全法講習会を開催し、「子どもの特徴と事故予防」や「AEDの使い方」について講義と実際に人形を使って体験していただきました。他の団員も講習中は子どもたちを預かるなど協力しました。今後も幼児安全法の地域への普及に努めていきたいと思います。

高校生との連携

市内にある星城高校のJRC部から「能登半島地震の被災地支援として、自分達が出来る第一歩は募金活動ではないか」と市役所を通じて相談があり、当赤十字奉仕団と生徒会、JRC部の合同で街頭募金活動を実施しました。前後駅前の広場に2日間、夕方の30分間一緒に募金活動を行いました。高校生の元気な呼びかけに奉仕団員たちも頑張ることができました。

今回繋がった縁を大切に、今後も一緒に活動をしていきたいと思っています。



PRESENT

木製しおり 20名様

国産のヒノキ間伐材を使用した、  
環境負荷の少ないしおりです。



Mail: aichi-koho@aichi.jrc.or.jp

Fax: 052-971-1590

郵送: 〒461-8561 名古屋市中区白壁 1-50  
日本赤十字社愛知県支部「日赤あいちプレゼント」係

①お名前 ②郵便番号・ご住所 ③電話番号  
④年齢 ⑤「日赤あいち」の入手先 ⑥ご意見・ご感想など

締切/令和6年6月30日必着

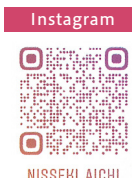


活動の詳細や  
最新情報は  
ウェブサイトか  
SNSへ

日赤あいち

検索

https://www.jrc.or.jp/chapter/aichi/



Instagram

NISSEI.AICHI



令和6年度事業計画と予算の概要

令和6年度における日本赤十字社愛知県支部の事業計画および一般会計歳入歳出予算についてご報告します。

事業計画の概要 (主な事業の抜粋)

◆災害救護活動と救護看護師の養成

大規模災害や豪雨災害などの災害に対して迅速かつ適切に医療救護活動を行うため、救護員等の養成に努めるとともに、災害救護物資の整備充実に取り組みでまいります。また、近隣の支部と広域支援体制を確立し、行政をはじめ関係機関との連携強化に努めてまいります。さらに、日本赤十字豊田看護大学において、災害救護活動に対応できる幅広い知識と技術を備えた優秀な看護師の養成を行ってまいります。

◆医療事業

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院及び日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院の両病院が災害時には医療救護活動を、平時は地域の中核病院として、救急医療、高度医療及び災害医療などの分野における機能強化を図り、地域のニーズに応じた医療の提供に努めてまいります。

◆血液事業

県内の医療機関からの要請に応え、より安全で良質な血液製剤を安定的に供給するため、400mL献血及び成分献血の一層の推進や、将来の献血を支える若年層への理解促進を図るための献血推進広報を積極的に実施してまいります。

◆救急法や健康生活支援講習等の普及

昨年度に続いて、子ども・子育て世代を支える活動を強化するため、幼児安全法を中心とした講習を積極的に実施するなど、より一層の講習普及に努めてまいります。さらに、普及の担い手となる指導員の増強を図るため、令和6年度については幼児安全法及び健康生活支援講習の講習指導員養成を実施してまいります。

◆赤十字ボランティアの活動と育成

講習指導員資格を取得した指導員による講習普及や、赤十字防災ボランティア・地区リーダー、赤十字防災セミナー指導者を中心とした防災・減災の知識・技術を普及する活動、子ども食堂をはじめとした子ども・子育て世代を支援するための取り組みを推進してまいります。

◆青少年赤十字の育成と普及

学校教職員及び教育行政機関の理解と協力を得ながら、メンバーの増強、指導者の養成、リーダーシップ・トレーニング・センターの開催、海外青少年赤十字メンバーとの交流、防災教育等各種事業を推進してまいります。

◆社会福祉事業

各地域における社会課題を把握し、行政、企業、他団体と連携し課題解決に向けて取り組んでまいります。また、外国人学校における医師の派遣等を通じた健康診断実施の支援等、市町村や関係団体と連携し、地域における多文化共生の取り組みを推進してまいります。

◆国際活動

世界各国・地域の赤十字・赤新月社が実施する災害対策事業や保健医療支援事業等への協力を行ってまいります。また、日本赤十字社の国際医療救護拠点病院に指定されている日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院にて緊急の救援要請に応えられる体制整備に努め、発災直後の緊急支援から中長期にわたる復興支援や開発途上国における保健医療支援に取り組みます。

一般会計歳入歳出予算の概要

歳入		
内 訳	予算額	
社資収入	1,092,000,000 円	86.9%
委託金・補助金及び交付金収入	6,823,000 円	0.5%
資産収入・雑収入	26,193,000 円	2.1%
前年度繰越金	132,343,000 円	10.5%
合計	1,257,359,000 円	100.0%

歳出		
内 訳	予算額	
①災害救護事業と救護看護師の養成に	395,321,000 円	31.4%
②救急法や健康生活支援講習などの普及に	49,935,000 円	4.0%
③赤十字ボランティアの活動と育成に	52,550,000 円	4.2%
④青少年赤十字の育成と普及に	53,435,000 円	4.3%
⑤社会福祉事業などに	21,545,000 円	1.7%
⑥血液事業の普及啓発に	5,389,000 円	0.4%
⑦国際的な活動に	10,684,000 円	0.8%
⑧活動資金募集のために	82,441,000 円	6.6%
⑨赤十字の普及・広報活動のために	41,856,000 円	3.3%
⑩赤十字病院救急医療体制の整備に*	143,413,000 円	11.4%
⑪市町村における赤十字活動に	121,400,000 円	9.7%
⑫全国的な赤十字活動に	121,050,000 円	9.6%
⑬支部の運営に	158,340,000 円	12.6%
合計	1,257,359,000 円	100.0%

\*使途が指定された活動資金による事業を含みます。



※事業計画の詳細については、日本赤十字社愛知県支部ウェブサイトでご覧いただけます。



令和6年国府宮はだか祭で  
臨時救護所を開設

## 熱気あふれるお祭りを赤十字が支えます

愛知県支部では、祭礼や地方公共団体の行事など多数の人が集まる公益的な行事やイベントで救護活動を行っています。

2月22日(木)、1200年を超える歴史で初めて女性が参加することが大きな話題になった令和6年国府宮はだか祭が稲沢市で開催されました。当日は日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院職員・愛知県支部職員・尾張赤十字救急奉仕団員が協力して臨時救護所を開設。熱気を間近に感じながら負傷者の応急手当などを実施し、お祭りの運営をサポートしました。

「やごと日赤ふれあいひろば」を  
開催します!日本赤十字社愛知医療センター  
名古屋第二病院からイベントのお知らせ

5月19日(日)午前10時から午後3時まで、当院を会場に「やごと日赤ふれあいひろば」を開催します。5年ぶりの開催となるこのイベントは多くの方にお越しいただき、当院や日本赤十字社の活動について体験や展示を通して知っていただける催しです。

医療機器の展示、健康チェック、看護専門学校や看護大学の紹介、能登半島地震での災害救護活動の紹介、献血(予定)など、大人から子どもまでお楽しみいただけるコンテンツを多数ご用意しております。日本赤十字社の活動にご興味がある方はお気軽にご来場ください。



## ～赤十字運動月間2024～

## 5月は赤十字運動月間です

日本赤十字社の前身である博愛社の創立記念日が5月1日であることと、赤十字の創始者の1人であるアンリー・デュナンの誕生日が5月8日であることから、日本赤十字社では毎年5月を「赤十字運動月間」として、赤十字の理念や活動へのご理解とご協力を呼びかけるPR活動を全国的に展開しています。

愛知県内でも赤十字ボランティアによる呼びかけ活動、ホームページや公式SNSでの情報発信などを通じ、愛知県内での赤十字の活動をPRしていきます。皆様からの温かいご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

日本赤十字豊田看護大学  
新学長就任

## 建学の精神である「人道の理念」を継承



令和6年4月1日より百瀬 由美子(ももせ ゆみこ)教授が新学長に就任いたしました。(鎌倉やよい前学長は令和6年3月31日で任期満了となりました。)

百瀬新学長は、愛知県立大学看護学部長、副学長を歴任し、令和4年より本学研究科長として着任いたしました。

本学はこれからも巨大地震や気候変動による自然災害の発生、医療現場でのAIやロボットの導入等、社会の変化と様々な健康課題と看護ニーズに対応できる人材育成と看護学研究の向上に努めてまいります。

今後とも、本学の教育研究の推進に変わらぬご理解とご支援をいただきますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

地域の皆さまに大学施設を  
開放しています学長  
メッセージは  
こちら

LEDビジョンを設置した講堂

## 救援物資の搬送

日本赤十字社では、慣れない避難所生活の不安を少しでも軽減するため、毛布や安眠セット、緊急セット、バーテーションのほか、水道が止まってしまった地域には簡易トイレ等を届けています。愛知県支部からも被災地の物資ニーズに応えるため、平時は県内各地に備蓄している救援物資を発災翌日から搬送しました。

## 救援物資のご紹介

今回の災害でも、全国の赤十字施設から被災地に届けられています。



## ●毛布

安心して眠れるよう毛布を備蓄。また、夏期の災害に備えてタオルケットも備蓄



## ●安眠セット

固い床面の避難所で快適に眠れるようなウレタン製のマットやアイマスク等



## ●緊急セット

何も持たずに避難した場合の日用品セット(4人家族を想定)

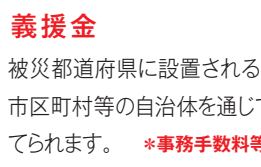
これらの救援物資は県内赤十字関連施設だけでなく、県内7市町村と協定を結び防災倉庫へ保管しているほか、各市市区町村にて一定数保管しております。

## 活動資金・義援金・海外救援金の違い



## 活動資金

災害時の被災者支援など日本赤十字社の行う様々な活動は、皆様からの継続的なご支援に支えられています。



## 義援金

被災都道府県に設置される義援金配分委員会に全額送金され、市区町村等の自治体を通じて、被災地の方々の生活支援に役立てられます。 \*事務手数料等は一切いたっておりません。



## 海外救援金

被災国の赤十字社が行う被災者支援活動に役立てられます。

皆様の温かいご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

\*\*\*\*\*令和6年能登半島地震災害義援金の受付\*\*\*\*\*

受付期間  
2024年1月4日(木)から2024年12月27日(金)まで

受付状況  
23,313,650,753円(令和6年2月21日現在)

※日本赤十字社で受け付けた義援金の合計額です。



\*\*\*\*\*

CLOSED  
被災者に寄り添う活動を

令和6年1月1日に発生した令和6年能登半島地震は、石川県を中心に甚大な被害をもたらしました。日本赤十字社は発災直後から全社をあげて被災者に寄り添った活動を続けております。今号ではこれまでの令和6年能登半島地震対応における愛知県支部の災害救護活動の一部をご紹介します。

## 愛知県支部の災害対応

愛知県支部は発災当日から活動を開始し、県内の赤十字施設から被災地への医療救護班や災害医療コーディネーターの派遣、救援物資の搬送等を継続してきました。

医療救護・  
こころのケア活動について

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院・第二病院から特に大きな被害が生じている石川県珠洲市・輪島市を中心に医療救護班を継続的に派遣してきました(3/31時点 両病院から延べ16班約120人)。医療救護班の活動は医療救護だけに留まらず、慣れない避難所生活やその後の生活に対する不安など多くの困難を抱える方々の声に耳を傾けるなど、広く被災者支援を行います。

また、こころのケア活動も開始し、被災者の精神面のケアに専門的な知見を有する職員を含むチームを4月以降も派遣しています。



雪の中、珠洲市内にたてられた臨時救護所



避難者の声に耳を傾ける救護班



活動にあたった救護員の声

活動内容  
避難所での巡回診療や衛生状態の確認、救護所(仮設テント内)での外来診察を行いました。

真冬の北陸ということもあり、避難所や救護所の寒さがとにかく厳しかったのが一番印象に残っています。水道があること、暖を十分にとることができるなど、いつも当たり前前に生活していることは本当に有難いことだと体感しました。被災された皆様が無事に暮らせる日々を取り戻せるよう、心よりお祈り申し上げます。

活動内容  
避難所を巡回診療し、避難者の診療や医療ニーズの調査、避難所環境を整っているかなどのアセスメントを行いました。

名二救護班  
(坪井看護部長、後列右から2番目)

日本赤十字社  
愛知医療センター名古屋第二病院  
看護部長  
坪井 有美子

●活動期間  
1/11～15(名二救護班第2班)

●派遣先  
石川県珠洲市

名一救護班  
(小栗医師、前列中央)

日本赤十字社  
愛知医療センター名古屋第一病院  
麻酔科副部長  
小栗 幸一

●活動期間  
1/27～29(名一救護班第4班)

●派遣先  
石川県珠洲市

## 赤十字ボランティアの活躍

救援物資の運搬や県内各地での義援金の募金活動などについては赤十字ボランティアのみなさんにもご協力いただきました。

発災翌日には救援物資を被災地へ搬送することとなり、トラックへの物資の積み込みや現地への搬送などに協力していただきました。また、愛知県内だけでなく、地震の影響で道路状況が悪い中、石川県支部の赤十字ボランティアに道を誘導してもらうなどの協力を得ることで、無事に被災地へ救援物資を届けることができました。

日本赤十字社  
豊田看護大学に備蓄された  
物資を運搬するボランティア県内各地で募金活動を行う  
赤十字ボランティア

## 支援要員の派遣

大規模災害に際しては被災地の病院や支部も被害を受け、勤務されている職員の方々が被災者となり、災害対応や業務の継続が難しくなります。

愛知県支部からも災害医療に知見を持つ日赤病院医師等の災害医療コーディネーターの派遣や、石川県支部を支援するための事務要員を発災直後から継続して派遣しています。



石川県支部災害対策本部の様子